

四十周年記念  
閑花会

平成三十年

十二月二日(日)

九時始め

大濠公園 能楽堂

番組

—素謡—

鶴  
亀

シテ 堀家 里雄  
ワキ 堤 秀樹

地謡 一同

枕  
慈童

シテ 今村 多美子  
ワキ 長野 静香

地謡

品川 壽子  
倉光 和子  
清末 嬉子  
濱地 美江子  
前田 信子

—仕舞—

紅葉狩  
高砂

甲斐美代子  
梶山美知子

紅葉狩  
胡蝶

諸岡 誠子  
緒方 晶子

熊野

服部 寛子

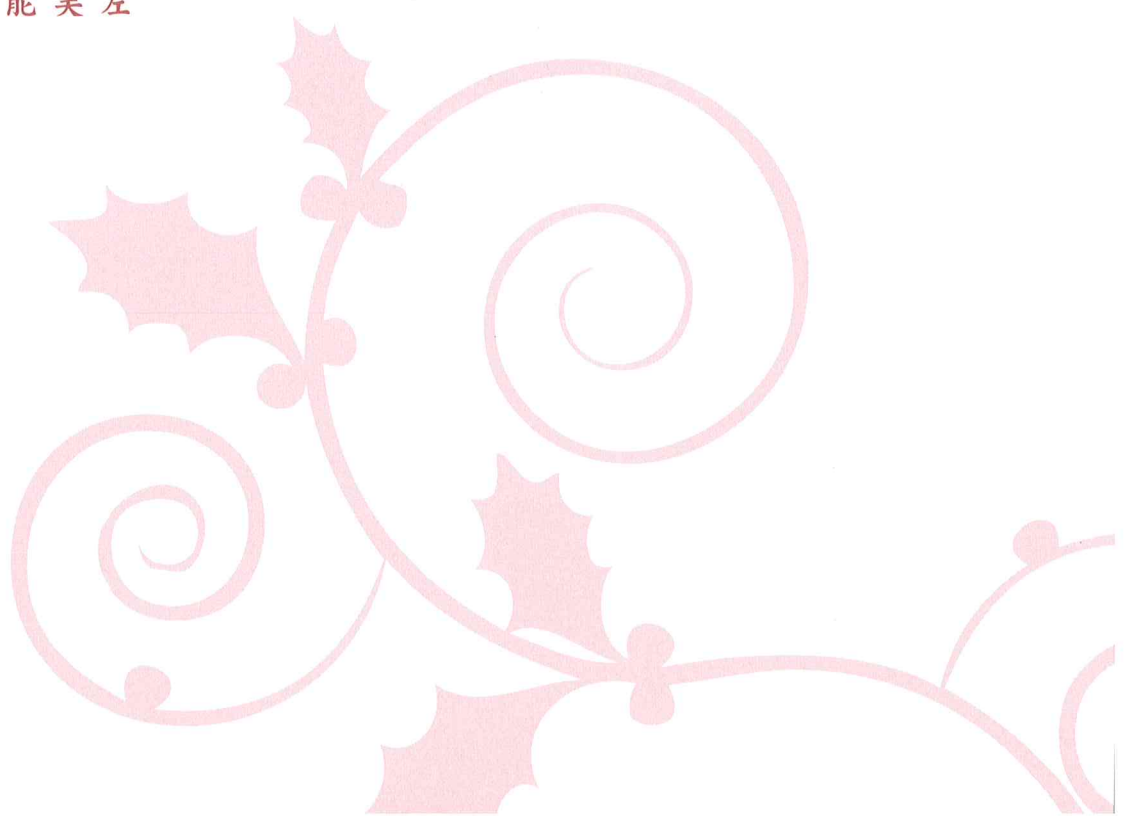
紅葉狩

下山 亜古

田村

進藤 千乃

武田 伊左  
山岡 晴美  
久貫 弘能  
三澤 栄子



—能—

# 葛

前シテ里女  
後シテ葛城の明神 田中トシエ

# 城

羽黒山の山伏 坂苗

融

羽黒山の山伏 坂苗

功

里の者 野村 万禄

後見 久貫 弘能

石黒 実都

大鼓 白坂  
小鼓 飯田

信行

清一

大鼓 吉谷  
笛 森田

潔

徳和

地謡

鈴木 智進  
服部 満  
中西 和夫  
福田 清道

佐野 登  
宝生 和英  
東川 光夫  
杉岡 敏英

—素謡—

# 経

# 政

シテ 小野田 桂子  
ワキ 坂井 陽子

地謡

梶山 美知子  
諸岡 誠子  
甲斐 美代子  
緒方 晶子

真子 圭子  
宮本 佐代子

# 松

# 風

ツレ 三澤 雅子  
シテ 甲斐田 知子  
ワキ 池田 めぐみ

地謡

吉野 富子  
緒方 晴子  
白水 久子

平柴 芙美子  
三澤 栄子  
大石 恵美子  
北村 親枝

—仕舞—

# 国

# 栖

フィッシュ 明子

# 羽

# 衣

あしび ゆき

# 大

# 江

宮本 佐代子

石黒 実都

山岡 晴美

久貫 弘能

武田 伊左

山岡 晴美

武田 伊左



敦盛 大蔵 隆久

幸白坂

正信行

相原

一彦

上野 東川 佐野

能寛 光夫 登幹

舞離子  
雲林院 石井 幸子

幸白坂

正信行

相吉谷

一彦潔

新関 渡辺 織田

淑子 佳子 万里

石黒 田村 久貫 武田

実都 恭能 弘左 伊能

難波 大石 惠美子

幸白坂

正保行

相吉谷

一彦潔

藤井 宝生 佐野 佐野

秋雅 和英 登幹

独吟  
鉢木 鈴木 恭一郎

天鼓

シテ 三澤 幸介  
ワキ 柳原 昭観

地謡

武波 保男 照彦 多一 阿木 小澤 小林 徳淵 小淵 義治 洋三

素謡

小督

小督 古賀 智子  
シテ 行徳 喜久代  
ワキ 石井 昭子

地謡

原田 マサコ 木下 クニ子 角田 和子 別府 道子 竹上 和子

横溝 スミ子 大内 田五子 田中 シエ 福島 仁子 甲斐 田知子 古賀 竹子



— 仕舞 —

江 八

口 島

キリ

小林 田代

多一 和夫

藤井 東川 佐野 佐野

秋雅 光夫 登 幹

— 半能 —

草紙洗

小野小町 山岡

朝臣 井上 忠彦  
朝臣 田中 秀敏  
朝臣 藤 慎一朗  
貫之 德淵 洋三  
王 奥家 利奈

大伴黒主 御厨

誠吾

大鼓 白坂  
小鼓 飯田

保行 清一

笛 森田

徳和

地謡

原田 十時 奥平 石井 山部

千鶴 幹子 和子 幸子 絹子

武田 久貫 田村 石黒 三澤

伊左 弘能 恭 実都 栄子

後見

宝生 和英  
佐野 登

— 素謡 —

唐

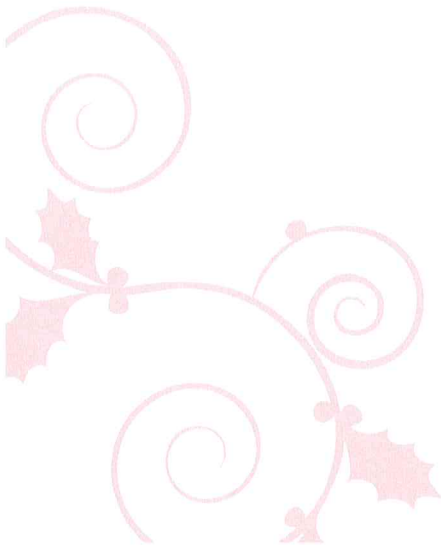
船

日本子 原田 マサコ  
唐子 福島 仁子  
シテ 大内田 五子  
ワキ 古賀 竹子

地謡

別府 道子  
木下 クニ子  
角田 和子  
古賀 智子  
竹上 和子

甲斐田 知子  
石井 昭子  
田中 トシエ  
行徳 喜久代  
横溝 スミ子



—素謡—

# 竹 雪

子方武波 保男  
ツレ小林 義治  
シテ平柴 芙美子  
ワキ阿木 照彦

地謡

小林 多一  
徳淵 洋三

—仕舞—

野宮 玉政 龍太 網之段 太鼓  
葛 堀 美津子  
山本ちか子  
吉野 富子  
緒方 晴子  
白水 久子

石黒 実都  
田村 恭  
山岡 晴美  
三澤 栄子

十五時半頃

—能—

# 土 蜘蛛

前シテ僧  
後シテ土蜘蛛の精

源頼光 山岡 均  
頼光の従者 進藤 圭子  
小蝶 真子 千乃

独武者御厨 誠吾

独武者の下人 吉住

従者 坂苗 融  
従者 坂苗 功

大鼓 白坂  
小鼓 幸

保行 正佳

大鼓 吉谷  
笛 相原

一彦 潔

地謡

今村 章一朗  
坂口 卓司  
大蔵 隆久  
福田 清道

藤井 東川  
佐野 杉岡

秋雅 光夫  
敏英 登

後見 宝生 和英  
上野 能寛

久貫 弘能  
石黒 実都



## 付祝言

### 葛城 (かつらぎ)

役小角(えんのおづの)の鬼神呪縛説話をもとにした曲とされる。雪深い葛城山に峰入りし道を失った山伏を一人の女性が柴を焚き暖かいてもてなしをします。女は山伏に自分のために祈り加持してほしいと頼むのです。女の素性は葛城の神であり、役行者に命じられた岩橋を架けなかつた罪により明王の策に縛られて苦しんでいるといいます。葛城の神は自分の醜い顔かたちを恥じて人目を避け、夜だけ仕事をしたことにより岩橋が出来上がらなかつたのです。

山伏の祈祷により神は、三熱の苦しみから逃れ喜びの舞を舞いますが、なお見苦しい姿を恥じ、夜の明けぬ先にと岩戸の中に入ってしまうのです。

### 草紙洗 (そうしあらい)

小町物の現行曲の中で唯一若く美しい小町を登場させる曲です。宮中の歌合わせで小町の相手となった大伴黒主は、策略をめぐらせます。小町が詠んだ歌を盗み聞きし、『万葉集』の草子に書き入れ、この歌は古歌だと主張します。

傷心の小町は、涙ながらに見る草子に文字の乱れを見つけ洗いたいと貫之に願うのです。みかわ水の清き流れは書き入れられた二首を消し去り、黒主の悪事が露見します。自害しようとする黒主は許され、小町は和歌の徳を讃え、祝いの舞を舞うのです。黒主という名の暗い印象からの卑屈さと、美貌歌人、小町の寛容さの対比で構成された創作です。

### 土蜘蛛 (つちぐも)

この曲は『日本書紀』の土蜘蛛説話を頼光主従の武勇伝に絡ませた『平家物語』「剣之巻」に拠つたものと思われています。

近頃、健康が優れず臥せている源頼光の館へ、薬を以て侍女小蝶が見舞いに来ます。気弱になつている頼光を小蝶は力づけますが、いつのまにか蜘蛛の化身と暗示する怪しげな僧が寝所に立ち入ります。頼光は名刀「膝丸」にて斬り付けると、化生のものは忽然と消え去ります。騒ぎを聞きつけた武者達は、化生のものを退治に出かけます。化生のものとは、葛城山に年経て棲む土蜘蛛の精魂でした。この世に災いをなそうと頼光を襲つたところ却って手負いになり、さらに武者達の刃に切り伏せられてしまいます。千筋の蜘蛛の糸が美しい画面を作り出し、躍動のある場面は演能会の終わりにふさわしい曲です。

## ご挨拶

昭和、平成と閑花会は、歴代の師の温かいご指導

そして諸先輩のお力添えのもとで、

微力ながらも能楽の愛好会として

四十年の時を続けて参ることができました。

厚く御礼申し上げます。

とくに、この二十年余りの久貫弘能先生との共同練習は、

新しいかたちの流友を得ることが出来ました。

会の枠を超えた協力体制が、この会の開催を可能にしたと

深く感謝致しております。

またこの度は、しあわせなことに

御宗家のお力添えを戴く事が叶いました。

出演者一同なによりも

この幸運を励みとして精一杯努めてまいります。

何卒、ご高覧賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

閑花会

会員一同  
山岡晴美

## 入場無料

粗食をご用意しております。

※数に限りがございます。

時間は推定につき  
多少の遅速お含み下さい

主催／閑花会

## 大濠公園能楽堂

〒810-0051

福岡市中央区大濠公園1番5号

☎092 (715) 2155

会場

